

## 平成30年度奈良県学校・地域パートナーシップ事業にかかる調査結果概要について

今回の調査について御協力ありがとうございました。  
当課で、アンケート集計の後、調査・分析を行いましたので、結果の概要を報告します。

### 【調査目的】

平成25年度より実施している標記事業について、各市町村・実施校での実施状況を総合的に把握し、今後の取組の改善や事業推進につなげる。

### 【調査結果の概要】

#### 効果について

「子どもたちのあいさつ」、「学習に対する興味関心や意欲」についての子どもの変容、「地域住民の学校に対する理解」などの大人の変容、「子どもたちの通学時の交通安全・防犯体制」「教育内容の充実」などの取組の充実に、事業実施校もコーディネーターも高い効果を感じています。

(p.2)

また、効果を生み出す要素としては、コーディネーターと学校とボランティアの三者による円滑なコミュニケーションが挙げられます。(p.2)

#### コミュニティ協議会について

コミュニティ協議会の開催回数は、前年度と比べて減少しています。また、コミュニティ協議会の構成では、地域コーディネーターやボランティア関係者の割合が前年度と比べて減少しています。(p.3)

議題の内容として、子どもの課題共有や事業内容の説明、改善点の議論の割合が増加しています。(p.3)

#### 実施体制について

取組の計画・実行において、教職員・コーディネーター・ボランティアの三者による話し合いが行われている割合が増えました。(p.4)

#### コーディネーターについて

コーディネーターの役割として、学校と地域・ボランティアとの連絡調整、学校の要望・状況把握など、学校と地域・ボランティアをつなぐ活動に力を入れているとした割合が増えています。

(p.7)

#### ボランティアについて

子どもたちとボランティアの方々との関係として、親しく会話ができる、学校外でも交流があるとした割合が増加しています。(p.5)

感謝の集いを開催している割合が前年度より増加しています。このような、学校がボランティアの方々のやりがいを引き出す取組を工夫しているところが多くなっています。(p.5)

※詳細については、次ページ以降を御覧いただき、事業推進の参考にさせていただきますようお願いいたします。